

竜胆

森岡 正作

海鳴りのあはひ秋声過りけり
青北風の漁なき漁師嬰を守る
嫁入りのやうに白桃届きけり
金木犀庭の主役に躍り出る
言ひ訳はするなと釣瓶落しかな
竜胆の鈴鳴るやうに風すさぶ
踏み込んで露のたばしる獣道

竹林に

秋田の田舎の近くに森吉山と言う千四百七十メートル程の山がある。遠目にはなだらかで富士山のように見えるが、麓にはマタギの村があつて当然熊も多にいる。それでも高校の行事に森吉山への全校登山というのがあつた。登山道が何通りかあり、今では考えられないことであるが生徒各自が都合のいい道を選ぶので、頂上で点呼が取られた。日本の花の百名山にも選ばれ、山毛櫛帯も広々とあるので秋の黄葉も実に美しい。登四郎先生に「竹林に一幹かしぐ櫛紅葉」という御句があり、「竹の春」の季語にあるように竹の豊かな緑に櫛紅葉の紅が印象的である。一方森吉山には竹林がなく、緑と言えば杉林であり、「一幹かしぐ」というような櫛紅葉が似合うであろうか。森吉山の黄葉の見頃は十月末であるが、先生の御句に触発されて訪ねたい気持ちがあるばかりである。